

政策の柱	I 市民の安全で健康な笑顔あふれる暮らしを支えるために	政策名 (基本施策名)	1 保健・医療サービスの質を高める	施策名	③ 国民健康保険の医療費適正化の推進
------	-----------------------------	----------------	-------------------	-----	--------------------

1 施策の取組状況

主要な取組内容	施策指標の実績とH24末の見通し	指標の達成率	施策指標等 (最上段が、総合計画に基づく指標)	単位	指標の数値(上段:目標値, 下段:実績値)						達成率
					H19	H20	H21	H22	H23	H24	H23
					基準年	実績	実績	実績	実績	見込み	H24見通し
◆特定健康診査・特定保健指導を推進し、メタボリックシンドローム該当者やその予備群を減少させることにより、被保険者の健康保持と中長期的な医療費の適正化を図っている。 ◆人間ドック・脳ドックの検診費用を補助することにより受診を推進し、疾病の早期発見、早期治療による被保険者の健康保持と医療費の適正化を図っている。	◆施策指標は、H21, H22と目標を達成し、H23も目標を達成する見込みだが、医療費適正化に寄与する特定健康診査・特定保健指導の受診率・実施率は、目標と隔たりがある。 ⇒基準年には4.50%であった増加率が、H23見込みは2.45%まで低下しているものの、医療技術の高度化により、H24末の目標達成は難しい。	91.8%	市民一人当たりの医療費の増加率	%	/	4.05	3.60	3.15	2.70	2.25	91.8%
					4.50	4.86	2.27	3.24	2.45	2.61	86.2%
課題 ◆特定健康診査・特定保健指導事業については、ともに目標値を大きく下回っており、受診率、実施率の向上が課題となっている。 ◆人間ドック・脳ドック検診補助事業については、受診者は微増傾向にあるが、さらなる受診者の増加が課題となっている。 ◆被保険者の健康の保持増進に資する保健事業の充実が課題となっている。 ◆先発医薬品と同等の効果が見込め低価格であるジェネリック医薬品の普及促進が課題となっている。 ◆レセプトの電子化が達成されたことにより、効率的な点検が推進され効果をあげているが、さらに、適正受診の推進や疾病予防のためのレセプトデータの有効活用が課題となっている。					/						
					/						
						/					
			市民意識調査(重要度・満足度)			H20	H21	H22	H23		
			重要度			74.8	70.2	69.1	83.0		%
			満足度			29.4	38.2	34.4	42.0		%

2 重点事業の進捗状況

事業名	スケジュール		事業の進捗状況とH24末の見通し	課題
	前期	後期		

3 施策を構成する事務事業の活動指標

No.	事業名	対象者	開始年度	活動指標等	単位	指標の数値(上段:目標値, 下段:実績値)					重点度(A~C) ※施策目標に対する寄与度	事業の方向性	施策目標を達成するための取組方針
						H20	H21	H22	H23	H24			
						実績	実績	実績	実績	実績			
1	特定健康診査・特定保健指導事業	40歳から74歳までの国民健康保険の被保険者	H20	特定健康診査受診率	%	30	40	50	60	65	A	継続	健診の重要性・必要性の周知啓発に努めるとともに、受診しやすい環境整備に努め、受診率の向上を図る。
				特定保健指導実施率	%	20	23	23	23	45			
2	人間ドック・脳ドック検診補助事業	40歳から74歳までの国民健康保険の被保険者	S59	受診者数	人	3,200	3,200	3,200	3,200	3,200	A	継続	検診の重要性・必要性の周知啓発に努めるとともに、受診しやすい環境整備に努め、受診者数の増加を図る。
						2,333	2,245	2,424	2,500				